

IBM i 2026

IBM i コンテンツ

IBM Bob Premium Package for i が切り開く IBM i 開発の 次世代像

日本アイ・ビー・エム株式会社
テクノロジー事業本部
Power & Cloud 事業部
Power & Cloud テクニカルセールス

IBM Bob Premium Package for i が切り開く IBM i 開発の次世代像

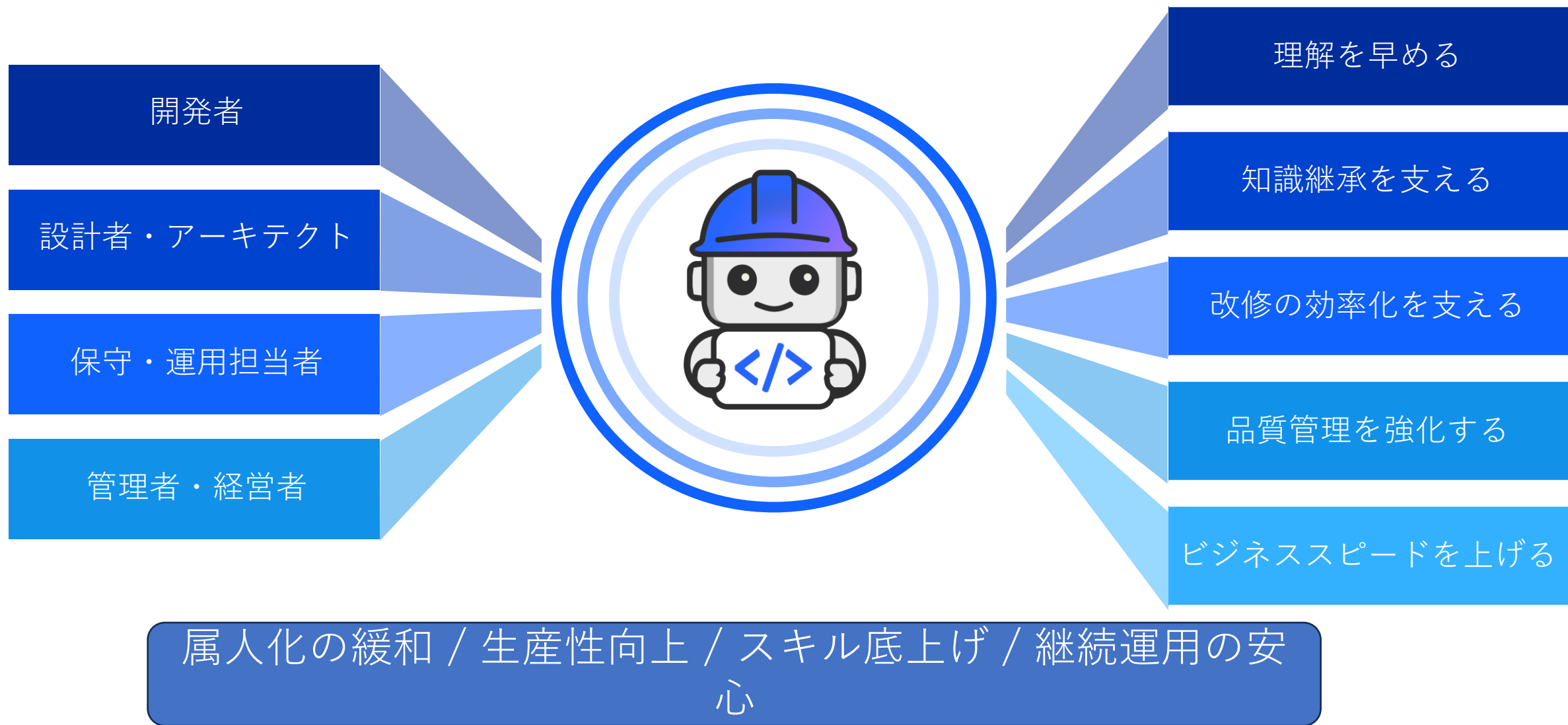
IBM Bob Premium Package for i は、IBM i 開発の理解・説明・変換・テスト・実行を支援する AI 開発パートナーです。本資料では、IBM Bob の基本像に加え、Premium Package for i により何が拡張され、現場でどのような価値を生むのかを整理します。

目次

1. IBM i 開発を取り巻く課題
2. IBM Bob と Premium Package for i の位置づけ
3. Premium Package for i 主要機能
4. スキル、ツール、ワークフロー、/(スラッシュ)コマンド、RAG詳細
5. ワークフローを実行してみよう
6. 前提条件・価格・まとめ

IBM i 開発を取り巻く課題

IBM Bob はITに関わる多様な人に役立ちます



IBM i ユーザーにとってのAIエージェント開発

2026 IBM i Marketplace Survey (Fortra社*) でIBM i スキルが初めて関心事の第1位に

順位	関心事	2025年	2026年
1位	IBM i スキル	2位	1位 ↑
2位	サイバーセキュリティー	1位	2位 ↓
3位	システムモダナイゼーション	3位	3位 →

お客様、パートナー様の関心事

- 技術者/開発者の世代交代
- IBM i 新機能の習得
- 多くの国で若手人口が減少

AIによるIBM i 活用スキルと生産性の確保

AI 導入により、IBM i の最新機能の活用力と、アプリ開発の実行力を同時に確保できます。今このタイミングでAIを導入することで、AIがアプリ開発を主導できるようになるであろう未来にも備えることができます。

*: 出典 <https://power.fortra.com/resources/guides/ibm-i-marketplace-survey-results>



2. IBM Bob と Premium Package for i の位置づけ

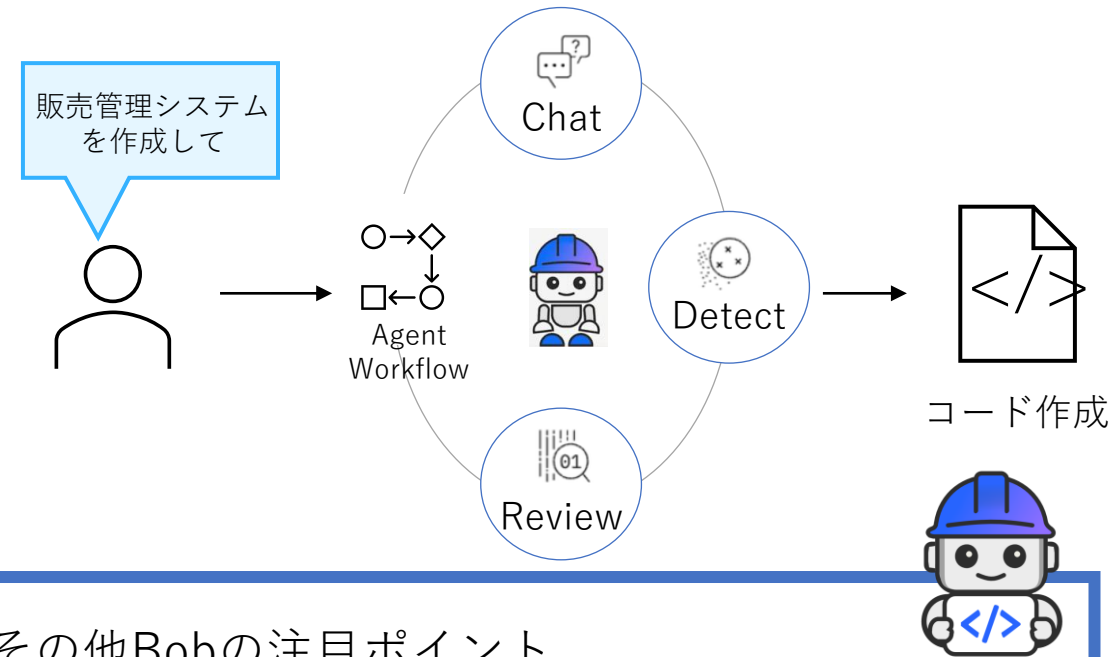
IBM Bobの概要

IBM Bobとは何か？

- IBM Bobがソースリポジトリや仕様書を理解し、**開発者のパートナー**として「要件確認、設計、仕様書生成、コード生成・修正、コードレビュー、最適化、テスト、本番化」を支援。
- IDE（VS Codeをフォーク）内に常駐し、作業フローを中断することなく、質問、設計、デバッグ、リファクタリングを実行。

なぜIBM Bobに注目するのか？

- **開発工程全体の生産性を向上**させ、反復作業を減らし、開発者の創造性を新たなレベルで解き放つ。
- **企業のソフトウェア開発向けの高度な機能を持つ**
 - 仕様書中心の「SPEC駆動開発」
 - 脆弱性スキャン
 - **IBM i 向け拡張機能を実装 (Premium Package)**



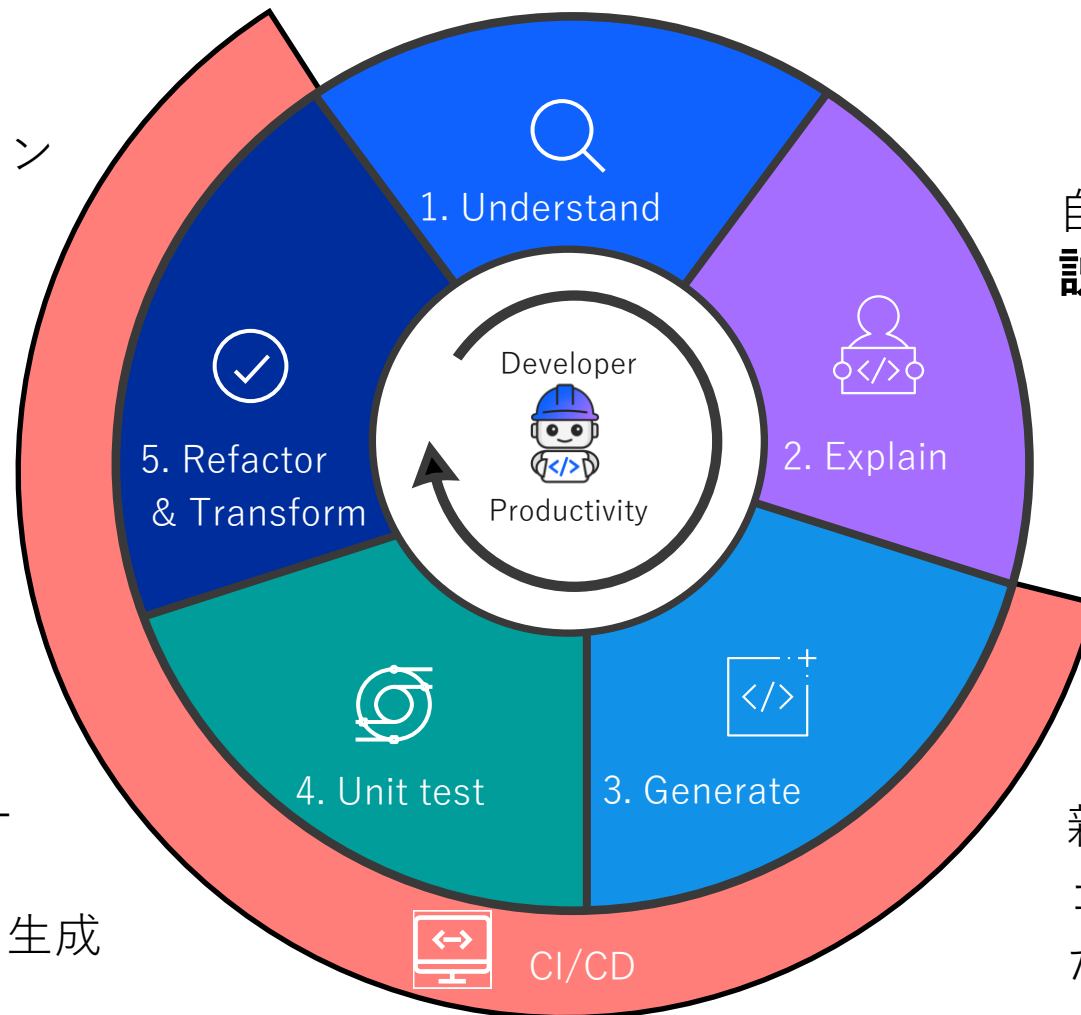
その他Bobの注目ポイント

- 複数のモード (Agent, Plan, Ask) を装備
- 開発者の作業に応じて最適なLLMをBobが柔軟に選択
- 幅広い言語に対応
 - **RPG, COBOL, CL, SQL, DDS**
 - Java, Python, JavaScript, TypeScript, Node.js, bash, PHP など

AIが支援するIBM i アプリケーションライフサイクル

RPG /COBOLアプリケーションの全体像や
仕様書の関連性を**理解**

モノリシックから
モジュラー構造に**再構成**
古いバージョンのプログラミング
言語とデータ定義から、
より新しく、より価値のある
バージョンへ**移行**



自然言語でRPG /COBOLコードを
説明し、ドキュメントを生成

より高品質なRPG /COBOL
コードのために
単体テストプログラムを生成

新しいアプリのRPG /COBOL
コード**生成**や既存アプリ更新の
ためのコード**生成**

IBM i 開発におけるAIの進化

これらは単なる機能のリリースではありません。

これは、IBM iの開発に真に適合するAIに向けた進化なのです。

IBM Bob

理解し、モダナイズする

- 複雑なRPGやCLについて、すぐに説明する
- 依存関係とビジネスロジックを可視化する
- 古いRPGを新しいRPGに安全に変換する
- 変更を加える前に、単体テストを生成する
- IBM i のソースコードを本番環境で安心して使えるレベルにモダナイズする

IBM Bob

Premium Package for i

統一・最適化

- IBM i に直接接続し、Bobから読み書き・テスト・コンパイルする
- 開発ワークフローの統合、コピー＆ペースト不要
- 実際のIBM i 開発パターンに特化したスキルとワークフロー
- RAGを活用したナレッジベースにより、Bobを信頼性の高いIBM i のドキュメントに基づいて動作させる
- IBM i 開発に最適化されたより良い結果を得ることができる

Future Innovations

SDLCのエンドツーエンドのオーケストレーション

- デプロイ、監視、CI/CDを含むDevOpsの統合
- 影響分析

Premium Package for i による カスタマイズされた体験、最適化された成果、統合された開発ワークフロー

IBM i 開発に合わせたユーザー体験

IBM i Developer Mode*

Base Bobをアプリケーション開発やシステムに精通した、IBM i アプリケーション開発のエキスパートへと育成する

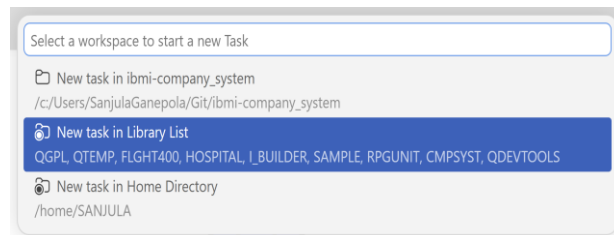
IBM i Database Mode*

IBM i 開発チームはクエリの分析、最適化、トラブルシューティングを行い、SQLおよびDDSに関する深い知見を提供できるようになる

最適化された実行結果

IBM i への直接接続

SSH経由で直接、IBM i に接続することにより、BobはIBM i上で読み書き・コンパイル・SQLやテストコードの実行などの操作を行う



事前設定されたスキル

IBM i に関する専門的なスキルで、BobがIBM i の開発タスクを最適に実行できるようにする

RAGの活用

公式なIBM i のドキュメントをBobに学習させ、適切な文脈に基づいたより良い回答を提供できるようにする

統合された開発ワークフロー

導入済みAIワークフロー

複雑なモダナイズ化作業を段階的に進め、現状を踏まえて今後の方向性を決定する

/ (スラッシュ) コマンド

特定のタスクに焦点を当てたモード固有のコマンド

※IBM i モードも他モード同様にカスタム可能

Premium Package for i によりIBM i に統合された開発へ



IBM i にアクセスするためには
IBM i 用のMCPサーバーの事前用意が必要

関連するソースメンバーをIBM i からPCへ
ダウンロード・アップロードが必要

コンパイル等のコマンドをBobは実行できない

LLMの力でソースから
テストケースやテストデータの作成が可能

IBM i の知見が少し足りないところがあり、
プロンプトで補強が必要



Premium Package for

拡張機能Code for IBM i を使って
SSHでアクセス可能

IBM i のソースファイルや
オブジェクトを直接確認可能

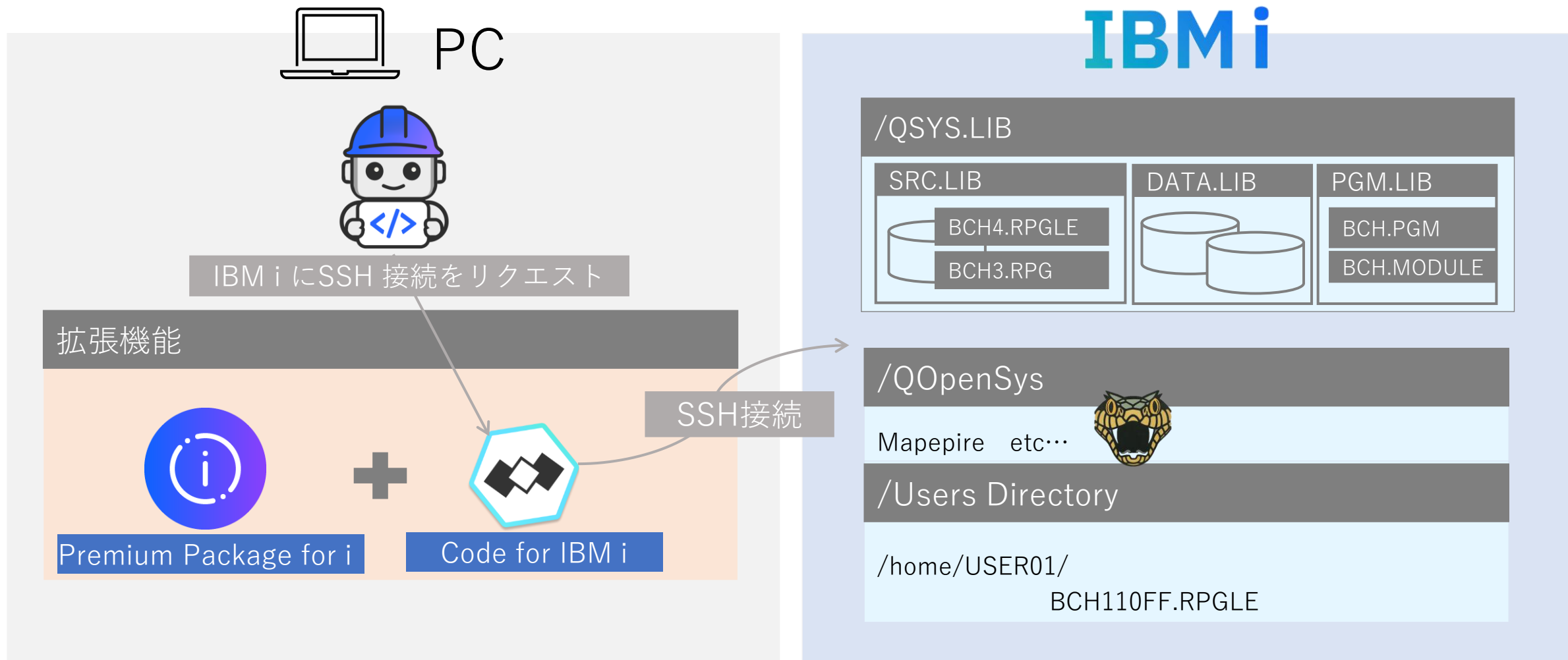
コマンド実行可能で、コンパイル実行後
結果確認をして修正ができる
SQLに実行も可能

Base Bobに加えて、ルールベースのツール(RPGUnit)
を使ってテストプログラム作成と実行が可能
(ルールベースのため、トークン消費を抑えられる)

IBM i の専門家としてIBM i 専用の
Skills, Tools, Workflows, Slash Commands, RAGを
使うことで**IBM i 開発の実務パートナーに!**

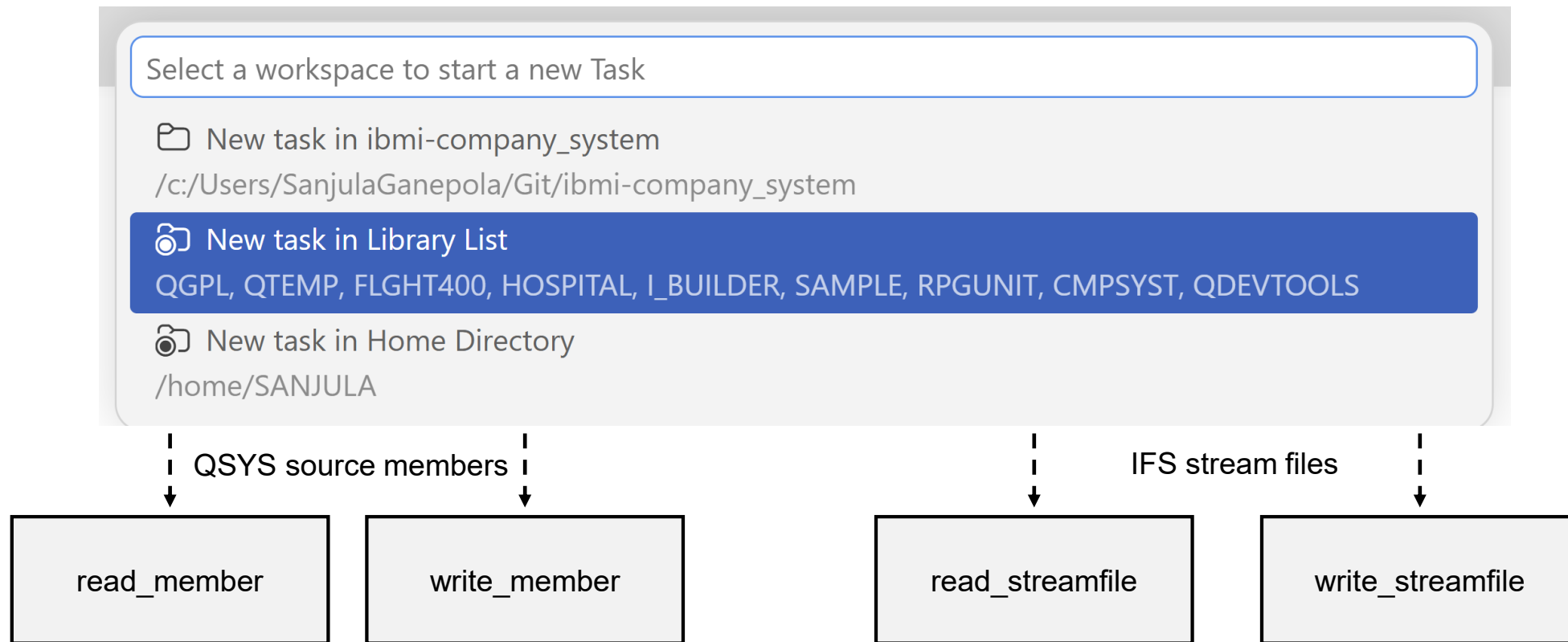
3. Premium Package for i 主要機能

IBM i への直接接続



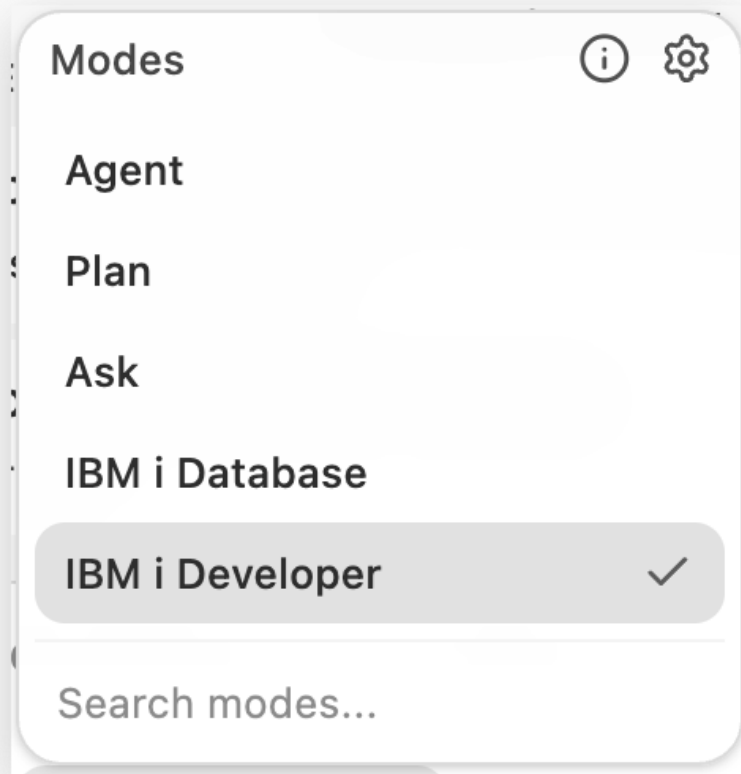
IBM i への直接接続

Bobはライブラリー・ファイルシステムまたはIFSに直接アクセスし、ソースの読み書きを行います。



IBM i Developer モード

BobはシニアなIBM i 開発者のペルソナを採用しています。



Bobについて

私は **Bob** です。IBM i 開発に特化した高スキルな IBM i デベロッパーです。

専門領域

カテゴリ	詳細
RPG	OPM RPG (RPG II / RPG III / RPG/400)、ILE RPG (RPG IV、固定形式・自由形式)
データベース	Db2 for IBM i の SQL
システム言語	CL (Control Language)
ファイル定義	DDS (Data Description Specifications)
その他	COBOL

動作ポリシー

- 🔍 **調査優先** — コードについて推測せず、必ずファイルを読んでから回答します
- 🔒 **最小権限の原則** — デフォルトで `AUT(*EXCLUDE)`、`*PUBLIC` への広範な権限付与は行いません
- ✂️ **最小変更** — 要求された変更のみ行い、不要なリファクタリングは行いません
- 🔄 **インクリメンタル開発** — 段階的なコード変更 → テスト → 再コンパイルを繰り返します
- ❓ **曖昧な要求には確認** — 仮定で進まず `ask_followup_question` で確認します

IBM i Developer モード

[IBM i Developer mode](#)

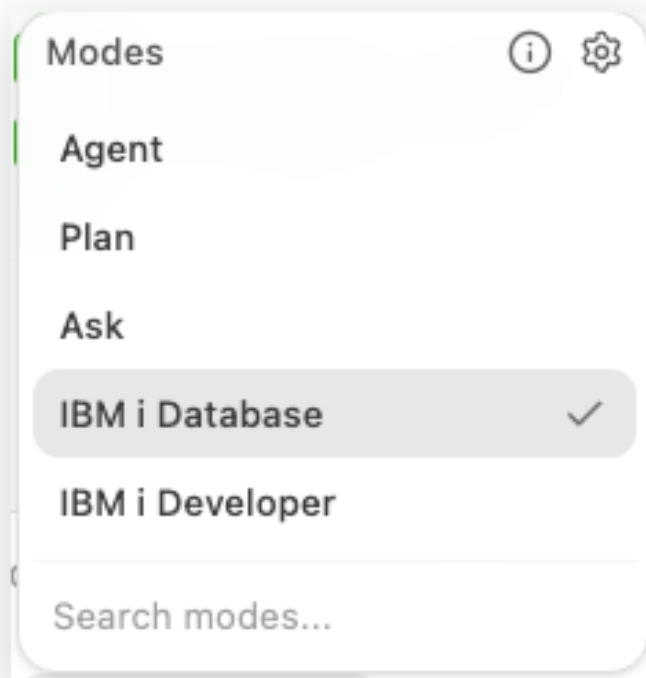
Aspect	Details
Name	IBM i Developer
Role definition	You are Bob, a highly skilled IBM i Developer with deep expertise in development on IBM i. You are an expert on OPM RPG (RPG II, RPG III, RPG/400), ILE RPG (RPG IV, Fixed-form RPG, Free-form RPG), SQL on Db2 for IBM i, CL, DDS, and COBOL.
Short description	IBM i 上のコードを説明、生成、コンパイル、テスト、文書化します
Base Tool access	read, edit, execute, mcp, todo, subtask, skill

使う場面

- ✓ 複雑なロジックや業務ルールを説明または文書化するとき
- ✓ IBM i 言語固有の形式でインラインコードドキュメントを生成するとき
- ✓ ローカルまたは IBM i 上（QSYS または IFS）で RPG（OPM または ILE）、CL、DDS、SQL、COBOL のソースコードを作成またはリファクタリングするとき
- ✓ CL コマンドまたはカスタム build tool を使用してオブジェクトをコンパイルするとき
- ✓ RPG の unit test suite を生成、実行、修正するとき
- ✓ 要件に基づいて IBM i アプリケーションのモダナイゼーション計画を作成し、実装するとき
- ✓ RPG コードを 固定フォームからフリーフォームにモダナイズするとき

IBM i Database モード

BobはDb2 for i の専門家ペルソナを採用しています。



現在のモード：IBM i データベース専門家（Bob）

現在選択されているモードは、前回の回答とは異なります。データベース専門家モードです。

私について（現在のモード）

私は **Bob** — IBM i の Db2 for i データベース専門家です。

IBM i デベロッパーモードと共通する部分もありますが、現在のモードでは以下に特化しています：

専門領域

カテゴリ	詳細
SQL 設計	Db2 for i の DDL (CREATE TABLE / INDEX)、DML (SELECT / INSERT / UPDATE / DELETE)
パフォーマンス	クエリ最適化、Visual Explain、Plan Cache 分析、インデックス戦略
セキュリティ	GRANT / REVOKE、最小権限、採用権限 (Adopted Authority)
データモデル	DDS (物理ファイル・論理ファイル) → DDL 変換
トランザクション	ジャーナリング、コミットメント制御、リカバリ
システムカタログ	QSYS2.SYSTABLES、QSYS2.SYSCOLUMNS2 などのメタデータ活用

IBM i Database モード

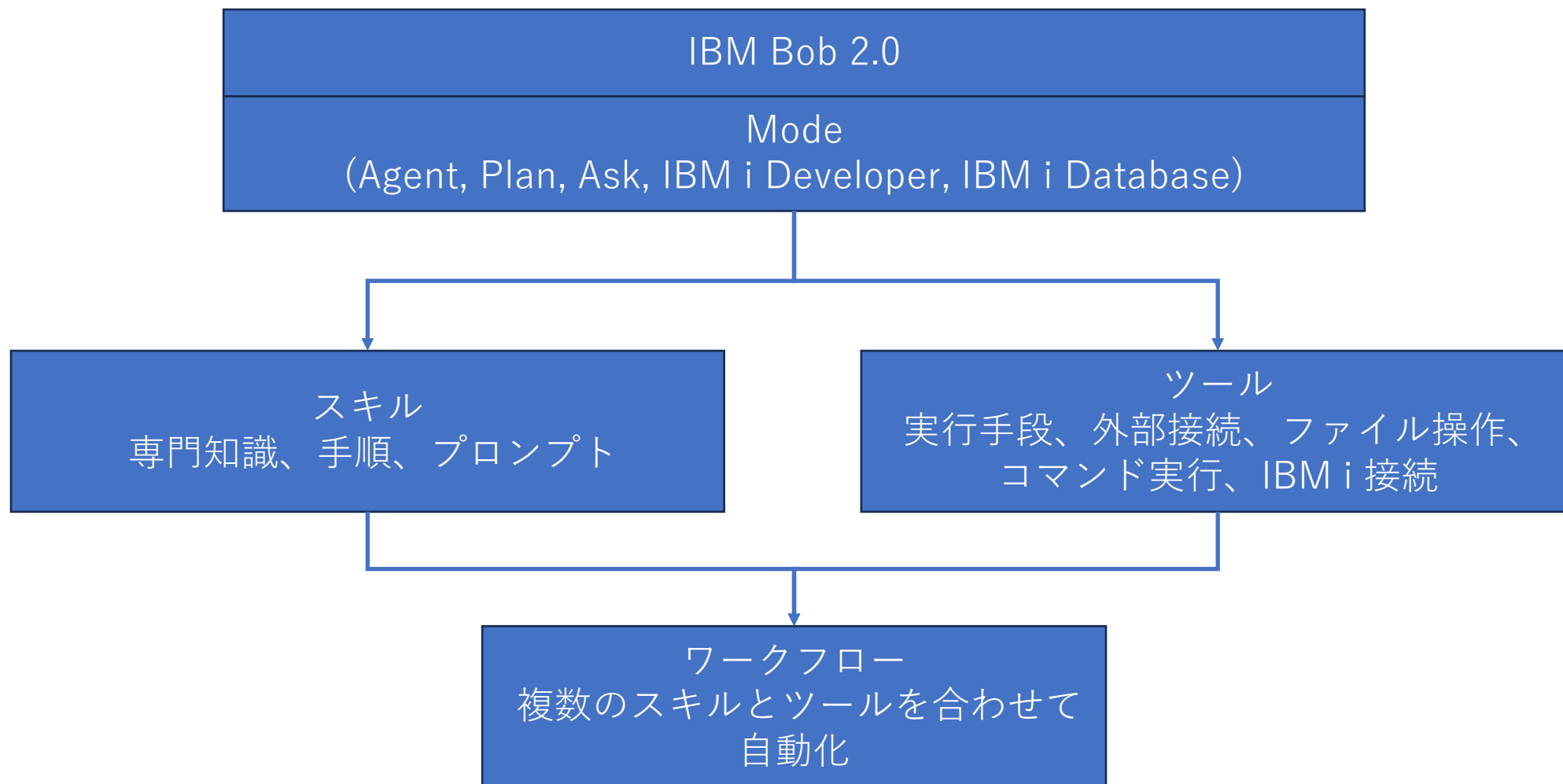
IBM i Database mode

Aspect	Details
Name	IBM i Database
Role definition	You are Bob, an IBM i database expert with deep, practical mastery of Db2 for i and the IBM i operating environment.
Short description	Db2 for i 内の SQL を生成、モダナイズ、チューニング、レビューをします
Tool access	read, edit, execute, todo, subtask, skill

使う場面

- 正確性、パフォーマンス、セキュリティー、IBM i のベストプラクティスを踏まえて Db2 for i の SQL ステートメントを作成またはレビューするとき
- 複雑なデータベーススキーマを理解するとき
- クエリーパフォーマンスやインデックス戦略を分析するとき

スキル、ツール、ワークフロー



スキル、ツール、ワークフロー

スキル



PP4i が提供する **スキル** は
「Bob が IBM i の専門知識を深く読み込む」仕組み

スキル がない場合：

Bob は汎用的な知識で回答するため、
IBM i 特有の細かい仕様やベストプラクティスが抜け落ちることがある

スキル があることで：

「汎用 AI」から「IBM i の専門家」に変わる、知っていることが増える

ツール



PP4i が提供する **ツール** は
「Bob が IBM i に直接アクセス・操作できる」仕組み

ツール がない場合：

Bob はコードを生成するだけで、
ユーザーが手動でコピー＆ペースト・コンパイル・実行をする必要がある

ツール があることで：

「IBM i 開発を提案するの AI」から
「実際に IBM i の操作ができる AI」
に変わる

ワークフロー



PP4i が提供する **ワークフロー** は
「IBM i 開発における、複数ステップの複雑な作業を手順通りに自動化できる」仕組み

ワークフロー がない場合：

ユーザーが「分析→設計→実装→検証」の各ステップを逐一 Bob に指示しなければならない

ワークフロー があることで：

「1問1答の AI」から
「IBM i の開発における、定型的なステップを把握して、作業ができる AI」
に変わる

/(スラッシュ)コマンド, RAG

/(スラッシュ)コマンド



PP4i が提供する **/(スラッシュ)コマンド** は「よく使う指示をショートカットで素早く呼び出せる」仕組み

/(スラッシュ)コマンド がない場合：

毎回、長い指示文をゼロから入力する必要があり、操作が煩雑になる

/(スラッシュ)コマンドがあることで：

「長い指示」から「短いコマンド入力で即実行できる AI」に変わる

RAG



PP4i が提供する **RAG** は「Bob が IBM i の公式ドキュメントを検索しながら回答できる」仕組み

RAG がない場合：

Bob は学習済みの知識だけで回答するため、IBM i 特有の細かい仕様や最新情報が不正確になることがある

RAG があることで：

「記憶だけで答える AI」から「IBM i の公式マニュアル・Redbook を根拠に正確に答える AI」に変わる

4. スキル、ツール、ワークフロー、/(スラッシュ)コマンド、 RAG詳細

IBM i スキル

IBM Bob Premium Package for i は、Bob に組み込まれている スキル を拡張し、RPG、CL、DDS、Db2 for i & SQL、Unit Testing を幅広くカバーする包括的な スキルセットを提供します。

Skills

[View full documentation →](#)

RPG

RPG fundamentals, free-format, ILE, fixed-to-free conversion, and more

CL

CL fundamentals, programming patterns, and best practices

DDS

DDS physical files, logical files, display files, and printer files

Db2 for i & SQL

SQL fundamentals, stored procedures, performance analysis, index strategy, and more

Unit Testing

RPGUnit test suite creation with appropriate assertions and test configuration

IBM i ツール

IBM Bob Premium Package for i は、Bob に組み込まれている ツール機能を拡張し、IBM i 専用の ツールセットを提供します。



Read

QSYS または IFS 内の内容を読み取り、検索します。



Edit

QSYS または IFS に内容を作成して書き込みます。



Execute

CL コマンド、SQL ステートメント、PASE コマンドを実行します。



Build

IBM i ソースコードをコンパイルします。



Test

unit test stub を生成し、code coverage 付きで test suite を実行します。



Documentation

公式 IBM i ドキュメント、CL コマンドドキュメント、SQL 例を検索して取得します。

IBM i ツールがサポートするスキルとAIワークフローのサンプル

Bobは、IBM i上で直接動作する専用のツールを実行します。

Read / Write to QSYS

Read / Write to IFS

Run CL Commands

Run PASE Commands

Run SQL Statements

Run Actions

Run i Project Builds

Run RPGUnit Tests

Compile Actions

Doc Search

and more...

IBM i ワークフロー

IBM Bob Premium Package for i には、IBM i の複雑な業務課題に対応するための **IBM i ワークフロー** が複数搭載されています。

各ワークフローは、目的に応じた2種類のステップを組み合わせで実行されます。

- **Agentic ステップ** (AIによる自律実行)
推論と ツール活用により、柔軟で多段階な作業を自動処理します。
- **Non-Agentic ステップ** (決定論的な処理)
あらかじめ定められた手順を確実に実行するため、トークン消費を抑えつつ、安定した結果を得られます。



RPG Modernization

OPM と fixed-format の ILE RPG ソースを、モダンな free-format RPG に変換します。



Business Rules Extraction

RPGLE ソースコードを分析し、業務ルールを Mermaid 図付きの Markdown レポートに抽出します。



RPGUnit Test Plan Creation

IBM i コードを分析し、構造化された RPGUnit test plan 文書を生成します。



RPGUnit Test Suite Implementation

既存の test plan 文書から RPGUnit test suite を実装します。



SQL Index Strategy Advisor

Db2 for i の SQL performance data を分析し、最適化された index 戦略を策定します。

IBM i ワークフロー

IBM i ワークフローは、OPMからILEへの変換、ビジネスルール、およびテスト生成をオーケストレーションします。

ステップバイステップのガイド付きAIワークフロー

複雑な課題

固定フォームのOPM を
フリーフォームのILE に変換する

- OPM から ILE へ
- 固定フォームからフリーフォームへ
- I仕様書とO仕様書を表示ファイルとプリンターファイルへ
- Move-statementと GOTO 文のクリーンアップなど

ビジネスルール抽出

- ビジネスルールとコードの重複を特定する
- プロシージャーに抽出する
- 適切な箇所をSQLに変換する
- レコードレベルのアクセスをSQLベースのアクセスに変換する

アプリケーションの
テストケース生成

- サービスプログラムのテストケースを生成する
- テストケースプロシージャーを作成する
- 既存のテストを確認し、不足しているテストを生成する

/ (スラッシュ) コマンド

Bob に組み込まれている / (スラッシュ) コマンド を拡張し、IBM i 専用の / (スラッシュ) コマンドセットを提供します。

/erd

/erd コマンド は、接続中の IBM i 上にあるデータベース **table** 群に対して、Mermaid スタイルの Entity Relationship Diagram (ERD) を生成するように **Bob** に指示します。

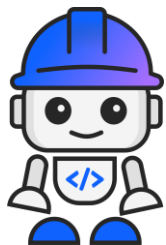
/review

/review コマンド は、事前定義された **checklist** に基づいて、正確性、パフォーマンス、セキュリティ、ベストプラクティスの観点から SQL ステートメントを包括的にレビューするよう **Bob** に指示します。

IBM i RAG

IBM Bob Premium Package for i には、IBM i の公式ドキュメントを検索して回答できる「RAG機能」が搭載されています。RAG を活用することで、Bob は IBM i のマニュアルや Redbook を根拠にした、正確で信頼性の高い回答を返すことができます。

RAGなし



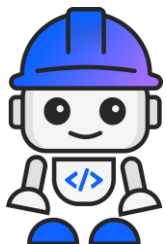
よくわからないけど、
推測してみるよ…



不正解な応答



RAGあり



RAGを使わせて！



IBM i documentation

IBM i Redbooks

Other

正しい文脈を理解



正確な応答



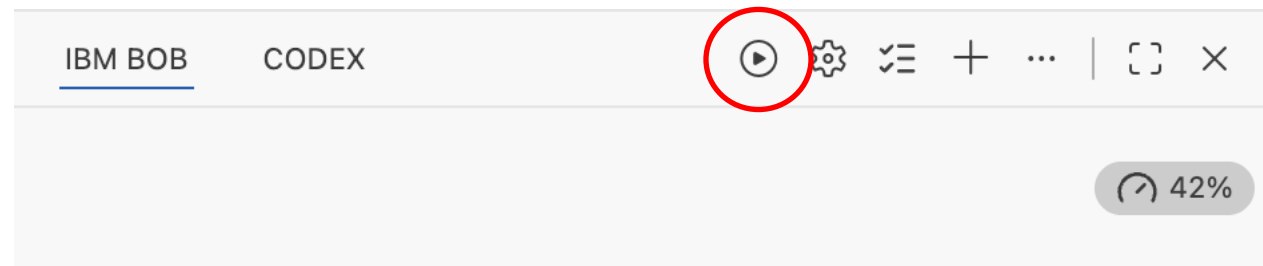
5. ワークフローを実行してみよう

ワークフローを使って固定フォームRPGをフリーフォームRPGに変換してみよう



をクリックして、ワークフローを開始します。

このワークフローを実行するワークスペースを選択します。
今回は、Run Workflow in Library Listを選択しています。



ワークフローを使って固定フォームRPGをフリーフォームRPGに変換してみよう

RPG Modernization を選択して開始をクリックします。

Bobワークフロー

×

ワークフローは、組み込みのAIプロンプトで複雑なタスクを段階的にガイドします。

Q ワークフローを検索...

すべてのワークフロー (5)

RPG Modernization

▶ 開始

▼

SQL Index Strategy Advisor

▶ 開始

▼

RPGUnit Test Plan Creation

▶ 開始

▼

RPGUnit Test Suite Implementation

▶ 開始

▼

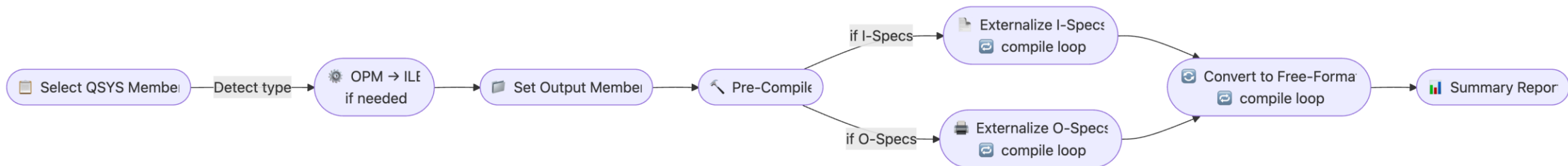
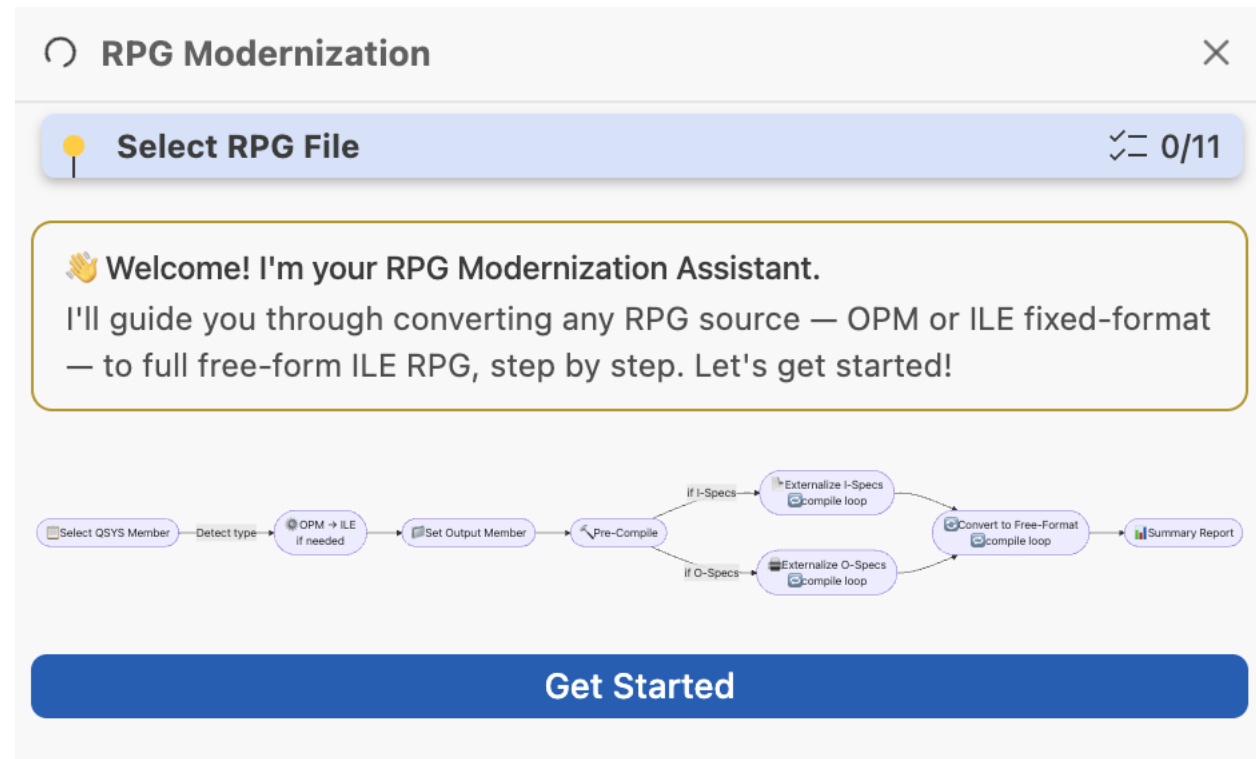
Business Rules Extraction

▶ 開始

▼

ワークフローを使って固定フォームRPGをフリーフォームRPGに変換してみよう

これから実行される処理フローが表示されます。
Get Startedをクリックします。



ワークフローを使って固定フォームRPGをフリーフォームRPGに変換してみよう

変換するソースファイルが配置されているライブラリーを選択します。選択したワークスペースから選択可能なものがリストされます。この場合はライブラリーリストがリストされます。

Continueをクリックするとソースファイルの選択画面が表示されるので、該当するソースファイルを選択してContinueをクリックします。

QSYS

User Library List



Select Library

Choose the library containing your RPG source file.

Library *

QEOLLIB



Continue

QSYS



Select Source File

Choose the source physical file containing your RPG member.

Source File *

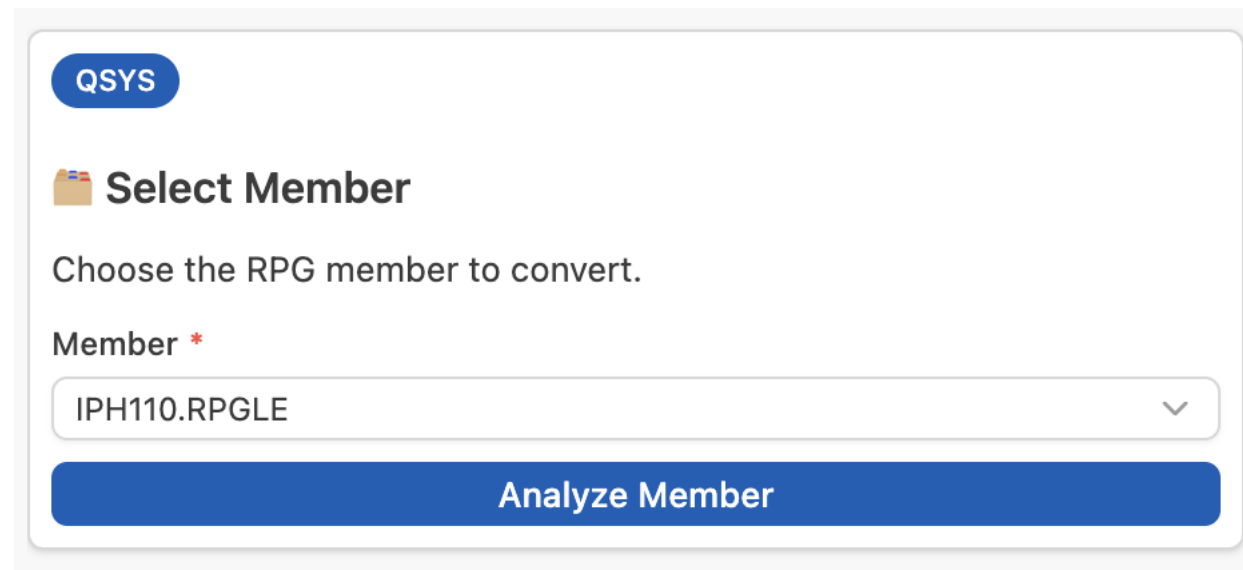
QEOLRPGLE



Continue

ワークフローを使って固定フォームRPGをフリーフォームRPGに変換してみよう

続いてソースメンバーを選択します。



The screenshot shows a software interface for selecting a source member. At the top left is a blue button labeled 'QSYS'. Below it is a folder icon followed by the title 'Select Member'. The instruction 'Choose the RPG member to convert.' is displayed. A label 'Member *' is positioned above a text input field that contains 'IPH110.RPGLE' and a downward arrow. At the bottom is a large blue button labeled 'Analyze Member'.

ワークフローを使って固定フォームRPGをフリーフォームRPGに変換してみよう

新しく作成されるフリーフォームRPGが配置される場所とメンバー名を指定します。
ここでは省略時のメンバー名と場所を選択します。

Confirm Output Member Location

The output location below has been inferred from your input member.
Choose whether to use the suggested location or specify a different one.

Suggested output location

QEOLLIB/QEOLRPGLE/IPH110_FRE.RPGLE

Output location

- ☒ Use suggested location
- ☐ Choose a different member

Continue

ワークフローを使って固定フォームRPGをフリーフォームRPGに変換してみよう

フリーフォームRPGに変換する前に現在の固定フォームRPGがコンパイル可能かどうかをアセス（事前にコンパイルを実行する）するかどうかを選択します。
今回は事前に確認済みなので、スキップします。

Before Converting to Free Format

Would you like to compile the Fixed-Format source first to verify it compiles successfully?

Compilation Option *

Compile the Fixed Format file

Skip compilation and proceed to conversion

Before Converting to Free Format

Would you like to compile the Fixed-Format source first to verify it compiles successfully?

Compilation Option *

Skip compilation and proceed to conversion



Continue

ワークフローを使って固定フォームRPGをフリーフォームRPGに変換してみよう

変換のためのツールの実行に移ります。
まずはソースメンバーの分析を行います。分析に使用されるスキルは以下のものです。

rpg-fixed-to-free
rpgle-specs
rpg-ile-understanding
rpg-file-operations
rpg-data-structures

承認待ちのツール:

Execute subtask: Complete Fixed-to-Free Conversion

```
{  
  "title": "Complete Fixed-to-Free Conversion",  
  "todos": "",  
  "mode": "ibm-i-developer"  
}
```

✓ 一度だけ承認

✗ 拒否

✓ タスクのsubtaskツールを承認

ワークフローを使って固定フォームRPGをフリーフォームRPGに変換してみよう

変換の作業に入ります。変換にあたってのTodoリストを作成、実行していきます。

Todoリストを更新

編集

- ソースファイル IPH110_T.RPGLE を読み込み・分析
- スキル読み込み (rpg-fixed-to-free, rpgle-specs, rpg-ile-unde...
- フリーフォーム変換コードを IPH110_FRE.RPGLE へ書き込む
- コンパイルの実施 (get_compile_actions + execute_compile_a...
- コンパイルエラーがあれば修正・再コンパイル
- end_subtask でレポート送信

✓ 一度だけ承認

✕ 拒否

✓ タスクのtodoツールを承認

ワークフローを使って固定フォームRPGをフリーフォームRPGに変換してみよう

変換が完了すると変換結果が表示されます。
ここで変更点を確認することができます。



ワークフローを使って固定フォームRPGをフリーフォームRPGに変換してみよう

変換が完了するとコンパイルを実行します。

承認待ちのツール:

Get compile actions for QEOLLIB/QEOLRPGLE/IPH110_FRE.RPGLE

```
{  
  "path": "QEOLLIB/QEOLRPGLE/IPH110_FRE.RPGLE"  
}
```

✓ 一度だけ承認

✕ 拒否

✓ タスクのexecuteツールを承認

承認待ちのツール:

Execute compile action "Create Bound RPG Program (CRTBNDRPG)" on QE...

```
{  
  "path": "QEOLLIB/QEOLRPGLE/IPH110_FRE.RPGLE",  
  "action": "Create Bound RPG Program (CRTBNDRPG)"  
}
```

✓ 一度だけ承認

✕ 拒否

✓ タスクのexecuteツールを承認

ワークフローを使って固定フォームRPGをフリーフォームRPGに変換してみよう

ソースメンバーをIBM i上のソースメンバーとして書き込み、コンパイルを実行します。

コンパイルが成功し、Todoリストが更新されます。

✎ ファイルQEOLLIB/QEOLRPGLE/IPH110_FRE.RPGLEを書き込みました >

ファイルが正常に書き込まれました。次にコンパイルを行います。

実行完了 2個のツール >

コンパイルが成功しました。

承認待ちのツール:

📋 Todoリストを更新

編集

- ソースファイル IPH110_T.RPGLE を読み込み・分析
- スキル読み込み (rpg-fixed-to-free, rpgle-specs, rpg-ile-unde...
- フリーフォーム変換コードを IPH110_FRE.RPGLE へ書き込む
- コンパイルの実施 (CRTBNDRPG 成功)
- コンパイル成功 - 修正不要
- end_subtask でレポート送信

✓ 一度だけ承認

✕ 拒否

✓ タスクのtodoツールを承認

ワークフローを使って固定フォームRPGをフリーフォームRPGに変換してみよう

変換結果のレポートの作成を行います。

承認待ちのツール:

🔧 サブタスクを完了

変更を伴うため本変換では踏み込んでいません)。\\n- **`WRITE
PANEL01`\*\*：元コードでは `PANEL02` 表示前に `PANEL01` に対して
WRITE を実行しています。これはセカンドパネル表示前に PANEL01 の内容
をファイルに書き込む意図と解釈され、そのまま保持しています。\\n- **D-
spec なし**：元ソースに D-spec が存在しないため DCL-S / DCL-DS
への変換は不要でした。`S1T0KB`・`SAGAKU`・`TKGEND`・`TKUZAN` は
外部記述ファイルのフィールドとして扱われます。\\n- **コンパイル成功
**：1回のコンパイルで全エラーなし・ワーニングなしで成功しました。\\n"
}

✓ 一度だけ承認

✗ 拒否

✓ タスクのsubtaskツールを承認

ワークフローを使って固定フォームRPGをフリーフォームRPGに変換してみよう

変換結果のレポートの作成された変換レポートが表示されます。

IPH110 RPG Modernization — Summary Report

1. Overview

Item	Details
Original File	member:/QE0LLIB/QE0LRPGLE/IPH110_T.RPGLE
Output File	member:/QE0LLIB/QE0LRPGLE/IPH110_FRE.RPGLE
Source Type	RPGLE Fixed-Form → Free-Form
Overall Result	✔ Success
Total Compile Attempts	1 (first-attempt success)

This modernization task converted a fixed-form RPG program (IPH110_T.RPGLE) — a customer inquiry screen program — into fully compliant free-form RPG (**FREE). The conversion covered all specification types present in the source: H-specs, F-specs, and C specs. No I-spec or O-spec externalization was required, as the



ワークフローを使って固定フォームRPGをフリーフォームRPGに変換してみよう

変換前

```

1  H DFTACTGRP(*YES)
2  F* IPH110_T * 得意先照会
3  FIPH110S  CF  E          WORKSTN
4  FTOKMSP   IF  E          K DISK
5  C                                DO      *HIVAL
6  C* PANEL01の表示
7  C                                EXFMT   PANEL01
8  C      *IN03                IFEQ      '1'
9  C                                SETON
10 C                                RETURN   LR
11 C                                END
12 C* 得意先マスターの読み取り
13 C      S1TOKB                CHAIN     TOKMSP          30
14 C      *IN30                  IFEQ      '0'
15 C* 差額計算
16 C      TKGEND                SUB       TKUZAN          SAGAKU
17 C* PANEL02の表示
18 C                                SETOF
19 C                                WRITE    PANEL01
20 C                                EXFMT    PANEL02
21 C      *IN03                IFEQ      '1'
22 C                                SETON
23 C                                RETURN   LR
24 C                                END
25 C*
26 C                                END
27 C                                END
28

```

変換後

```

**FREE                                // 得意先マスターの読み取り
// IPH110_FRE - 得意先照会 (フリーフォーム変換) CHAIN S1TOKB TOKMSP;
// 変換元: IPH110_T.RPGLE

                                IF %FOUND(TOKMSP);
CTL-OPT DFTACTGRP(*YES);           // 差額計算
                                SAGAKU = TKGEND - TKUZAN;

// ファイル宣言
DCL-F IPH110S WORKSTN;             // PANEL02の表示
DCL-F TOKMSP DISK(*EXT) KEYED      WRITE PANEL01;
USAGE(*INPUT);                     EXFMT PANEL02;

// メイン処理ループ
DOW *ON;                           IF *IN03 = *ON;
// PANEL01の表示                  *INLR = *ON;
EXFMT PANEL01;                     RETURN;
                                ENDIF;
                                ENDIF;

IF *IN03 = *ON;
*INLR = *ON;
RETURN;
ENDIF;

                                ENDDO;

```

6.前提条件・価格・まとめ

IBM Bob Premium Package for i 利用前提について

前提利用条件については、[IBM Bob Premium Package for i公式ドキュメントの前提条件](#)の章をご参照ください。
以下に特に確認いただきたい点を記載しております。

- ・ IBM Bob v2.0以上でご利用ください。
- ・ 以下のIBM i 関連の拡張機能（オープンソース）の導入が必要です。

名前	ID	最低バージョン
Code for IBM i	halcyontechltd.code-for-ibmi	3.0.10
Db2 for IBM i	halcyontechltd.vscode-db2i	2.0.0
RPGLE	halcyontechltd.vscode-rpgle	0.33.6
CLLE	IBM.vscode-clle	1.2.5
IBM i Testing	IBM.vscode-ibmi-testing	1.3.4
IBMi Languages	barrettotte.ibmi-languages	0.6.25

- ・ Code for IBM i を使って IBM i に接続するには、以下の要件を満たす必要があります。
 - ・ IBM i 7.4以上
 - ・ IBM i 上で SSH デーモンが起動していること（STRTCPSVR *SSHD でデーモンを起動）

IBM Bob Enterprise SaaS プラン

2026年7月現在の情報です。

Enterprise SaaS プラン

ユーザー課金

月額料金：3,187円

- ・ ユーザー数に対する課金
- ・ 年間契約(38,244円/ユーザー)必要

利用量課金

年間プール型利用枠

- ・ ユーザー数に依存しない
- ・ 1000Bobcoin⁽¹⁾単位で購入
- ・ 1契約1単位以上の購入が必要

オプション Premium Package

- ・ 利用量課金の年間プール型利用枠は、1000Bobcoin単位(79,692円/単位)で購入、全ユーザーで共有で、12か月間いつでも利用可能。期間終了前に追加購入(79,692円/単位)も可能。使い切った場合、Overage発生し、(87,700円/単位)で月次請求。
- ・ 基本サポート(無償)およびアドバンスドサポート(有償)などのサポートメニューを提供。アドバンスドサポート課金はユーザー課金・利用量課金の総額の15% (最小金額6,374,000 円)。

IBM Bob Enterprise SaaS プラン概要：

- ・ **組織向け管理機能**：利用状況レポートや個人・チーム別の利用量管理、SSO連携などにより、エンタープライズ環境での統制と可視化を実現
- ・ **シンプルな料金体系**：ユーザー課金と組織利用量課金のシンプルな料金設定
- ・ **高いコスト予測性**：利用モデルに依存しない統一課金により、利用規模に応じたコストを容易に見積可能とし、安定したコスト運用を実現

(1)Bobcoinとは：コード生成、ファイル操作、コマンド実行などの各タスクに応じて消費される利用単位であり、消費量や利用額は管理機能で可視化・管理・設定が可能

生産性を高める追加機能 Premium Package

Premium Package for Java Modernization

追加月額3,187円でユーザー課金

- ・ レガシーJEEアプリケーションのLibertyへのリプラットフォーム
- ・ レガシーUIスタックからのフレームワークモダナイゼーション

Premium Package for IBM i

追加月額6,375 円でユーザー課金

- ・ RPG/COBOL向けモダナイゼーションワークフロー
- ・ オンシステム開発の実現
- ・ カスタマイズ可能なプロンプトおよびコマンド
- ・ IBM i RAGの活用

Premium Package for Z

追加課金：サーバー/ユーザー単位

- ・ ビジネスルールを含むアプリケーションの理解・説明
- ・ モノリシックなCOBOLアプリケーションのリファクタリング
- ・ アプリケーション性能の最適化
- ・ カスタマイズ可能なプロンプトおよびコマンド

IBM Bob Premium Package for i まとめ

Base Bobをさらに強化する機能群がIBM Bob Premium Package for i に多く搭載

2つのIBM i 専用モード
専用モードに搭載されたスキル、
ツール、ワークフロー、/(スラッシュ)コマンド、RAG

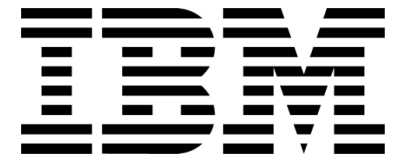
IBM i にここまで統合されたAIエージェント開発は、唯一無二

IBM i に直接アクセス可能、ライブラリー、IFS問わずオブジェクトを操作可能



属人化の解消、モダナイゼーション加速、品質向上を同時に支援できます。まずは解析・文書化・テスト生成のような着手しやすい領域から評価を始めるのが有効です。

まずは早く、小さく始めるのが、うまくいくコツです。IBM Bobと一緒に知見を積み重ねて、IBM i の開発、運用を効率化していきましょう！



IBM i 関連情報 – 1) 情報サイト (2026/06/24 更新)

IBM i ポータル・サイト

<https://ibm.biz/ibmijapan>

i Magazine (IBM i 専門誌。春夏秋冬の年4回発刊)

<https://www.imagazine.co.jp/IBMi/>

IBM i 情報サイト iWorld

<https://ibm.biz/iworldweb>

IBM i 関連セミナー・イベント

<https://ibm.biz/powerevents-j>

保存版「これから使う人のためのIBM i入門ガイド」 (全42章)

<https://www.imagazine.co.jp/imagazine-7071/>

IBM i 製品とサポートのロードマップ

<https://ibm.biz/ibmiroadmap2025>

IBM i 7.6 技術資料 (英語版)

<https://www.redbooks.ibm.com/abstracts/sg248588.html>

IBM Power ソフトウェアのダウンロードサイト (ESS)

<https://ibm.biz/powerdownload>

Fix Central (HW・SWのFix情報提供)

<https://www.ibm.com/support/fixcentral/>

IBM My Notifications (IBM IDの登録 [無償] が必要)

「IBM i」「9105-41B」などPTF情報の必要な製品を選択して登録できます。

<https://www.ibm.com/support/mynotifications>

IBM i 各バージョンのライフサイクル

<https://www.ibm.com/support/pages/release-life-cycle>

IBM i 以外のSWのライフサイクル (個別検索)

<https://www.ibm.com/support/pages/lifecycle/>

IBM Power Virtual Server 情報

<https://ibm.biz/pvsjapan>

IBM i 関連情報 – 2) スキル関連サイト (2026/06/24 更新)

月イチIBM Power / SW情報セミナー「IBM てくのサロン」
<https://community.ibm.com/community/user/blogs/minobu-yoshikawa/2026/03/16/techno-salon>

IBM i 関連セミナー・イベント
<https://ibm.biz/powerevents-j>

IBM i リスキリングカレッジ
<https://ibm.biz/ibmireskill2025>

IBM i Club (日本のIBM i ユーザー様のコミュニティー)
<https://ibm.biz/ibmiclubjapan>

IBM i RiSING - IBM i 若手技術者コミュニティー
＜ご参考＞ 2025年度まとめ
<https://qiita.com/gomAnomalocaris/items/20d9179f48a55fd58bc5>
＜ご参考＞ 2024年度まとめ
<https://qiita.com/gomAnomalocaris/items/3ba6d0bb2d6c61a7a581>

IBM TechXchange Powerユーザーコミュニティー (日本)
<https://ibm.biz/ibm-power-user-community>

世界最大のIBM i ユーザーコミュニティー COMMON USA
日本のユーザー様・パートナー様もご加入いただけます
<https://www.common.org/>

IBM i 研修サービス (i-ラーニング社提供)
<https://www.i-learning.jp/service/it/iseries.html>

IBM i 研修サービス (ティアンドトラスト社提供)
<https://www.tat.co.jp/cor/COR420P.php>

IBM i 研修サービス (クレスコ・ジェイキューブ社提供)
<https://www.cresco-jcube.co.jp/business/j-cube-academy>

IBM i 研修サービス (ソリューション・ラボ・ジャパン社提供)
<https://www.slj-net.co.jp/sustainable-solutions/rpg/>

IBM i 研修サービス (ソルパック社提供)
<https://www.solpac.co.jp/service/powersystems/TrainingService/>

IBM i 関連情報 – 3) オンデマンド・セミナー (2026/06/24 更新)

IBM i Essentials 2026 Spring オンデマンド・セミナー

<https://video.ibm.com/recorded/134795115>

IBM i 新時代を切り開く IBM Bob お披露目Webセミナー

<https://video.ibm.com/recorded/134761370>

IBM i Advantage 2025 オンデマンド・セミナー

<https://ibm.biz/ibmiadvantage2025>

IBM i World 2025 オンデマンド・セミナー

<https://ibm.biz/ibmiworld2025>

IBM i Advantage 2024 オンデマンド・セミナー

<https://ibm.biz/ibmiadvantage2024video>

IBM i World 2024 オンデマンド・セミナー

<https://video.ibm.com/recorded/133917616>

IBM i World 2023 オンデマンド・セミナー

<https://ibm.biz/ibmiworld2023>

IBM i World 2022 オンデマンド・セミナー

<https://video.ibm.com/recorded/132423205>

ワークショップ、セッション、および資料は、IBMによって準備され、IBM独自の見解を反映したものです。それらは情報提供の目的のみで提供されており、いかなる読者に対しても法律的またはその他の指導や助言を意図したものではありません。本資料に含まれている情報については、完全性と正確性を期するよう努力しましたが、「現状のまま」提供され、明示または暗示にかかわらずいかなる保証も伴わないものとします。本資料またはその他の資料の使用によって、あるいはその他の関連によって、いかなる損害が生じた場合も、IBMは責任を負わないものとします。本資料に含まれている内容は、IBMまたはそのサプライヤーやライセンス交付者からいかなる保証または表明を引きだすことを意図したものでなく、またそのような結果を生むものでもありません。

本資料でIBM製品、プログラム、またはサービスに言及していても、IBMが営業活動を行っているすべての国でそれらが使用可能であることを暗示するものではありません。本資料で言及している製品リリース日付や製品機能は、市場機会またはその他の要因に基づいてIBM独自の決定権をもっていつでも変更できるものとし、いかなる方法においても将来の製品または機能が使用可能になると確約することを意図したものではありません。本資料に含まれている内容は、読者が開始する活動によって特定の販売、売上高の向上、またはその他の結果が生じると述べる、または暗示することを意図したものでなく、またそのような結果を生むものでもありません。パフォーマンスは、管理された環境において標準的なIBMベンチマークを使用した測定と予測に基づいています。ユーザーが経験する実際のスループットやパフォーマンスは、ユーザーのジョブ・ストリームにおけるマルチプログラミングの量、入出力構成、ストレージ構成、および処理されるワークロードなどの考慮事項を含む、数多くの要因に応じて変化します。したがって、個々のユーザーがここで述べられているものと同様の結果を得られると確約するものではありません。

記述されているすべてのお客様事例は、それらのお客様がどのようにIBM製品を使用したか、またそれらのお客様が達成した結果の実例として示されたものです。実際の環境コストおよびパフォーマンス特性は、お客様ごとに異なる場合があります。

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、Db2、Rational、Power、POWER8、POWER9、AIXは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corporationの商標です。

他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。

現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

インテル、Intel、Intelロゴ、Intel Inside、Intel Insideロゴ、Centrino、Intel Centrinoロゴ、Celeron、Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、およびPentium は Intel Corporationまたは子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linuxは、Linus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windowsロゴは Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標です。

ITILはAXELOS Limitedの登録商標です。

UNIXはThe Open Groupの米国およびその他の国における登録商標です。

JavaおよびすべてのJava関連の商標およびロゴは Oracleやその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。